

平成22年度 第1回 鳥取市総合企画委員会（議事概要）

- 日 時 平成22年4月30日（金）午後1時30分～3時15分
- 場 所 鳥取市役所本庁舎6階 全員協議会室
- 出席者 鳥取市総合計画委員会 委員（15名）
市長、副市長ほか各部長（監）、企画調整課（事務局）

1 開会（羽場企画推進部長）

2 市長あいさつ

<要旨>

- 本年度第1回の総合企画委員会、そして市政第3期のスタートとして初めての総合企画委員会である。私は、新たな市政の展開を強く訴えて選挙を戦ってきた。
- 今回、市長のマニフェストを重点推進項目として載せている。第8次総合計画の中で推進してきたことを受け、新たな総合計画の策定にあたって現状を改めて認識し、将来の見通しを持って施策を進めることが必要である。マニフェストでは、鳥取力を高めることを第一に掲げている。人づくり、特色を生かした地域づくりは、合併した鳥取市として極めて重要な課題である。高速道路を生かした地域経済の発展、防災など、助け合いによって地域を支えていくことや、地域の伝統文化や生活を通じて子どもを育みながら地域への帰属意識を醸成することなどを展開したい。健康や緑豊かな自然環境、人とモノの交流の活発化に向けたインターネットの利活用や新産業の育成も掲げている。「ひとを大切にすまちづくり」という点に力点を置き、これにより市政を進めたい。
- 5月1日付人事異動により組織体制は変わる。総合計画の分掌は、企画推進部から総務部になるが、人的配置は継続するので引き続いて進める。
- これまで総合計画を分掌していた企画推進部は、これまで以上に「攻め」の企画を担当することになる。革新的で新しい企画を本市に導入することを期待している。また、計画づくりや計画のフォローから離れて、もっと伸び伸びとした企画を打って出るものである。
- これからの1年間が総合計画の策定期間。鳥取市が前に進むことを強く願い、これまでの計画にはなかった新機軸も織り込んで頂くことを願っている。委員の皆さんの協力により、速やかに作業が進むことを願っている。そして、平成23年度からは、第9次総合計画によっていいスタートを切りたい。

3 道上委員長あいさつ

<要旨>

- 市長の3選目の当選を心よりお祝い申し上げる。
- 1年間かけて第9次総合計画を仕上げていくことになる。総じて総合計画とは総花的にならざるを得ないが、鳥取市を他の市町村とは違った特徴的なまちにしていくことが大事ではないか。市民が自信を持って、鳥取市がいいまちであると言えるようにするためには、他にはない自慢できるポイントが必要。砂像フェスティバルが大盛況で多くの観光客が来たことは評価されるべきであるなど、イベント的なことも大事だが、少子高齢

化が進む中で、まち自身が住みやすくなり、行動しやすくなることが大事。ひとつくらいはどこにも負けないというものを計画に入れて、第9次総合計画を作り上げていきたい。前例を気にせず、将来性があるものに取り組んでいきたい。世の中の変革の波に遅れないように、変革を契機にして鳥取が住みやすく、自慢のできる、プライドの持てるまちにするためにも議論を重ねていきたい。

4 議事（進行：委員長）

（1）第9次鳥取市総合計画の策定について

事務局より説明（田中企画調整課長）

- 総合計画は、これまで企画セッションでつくってきたが、第9次総合計画は行政改革という視点もふまえて作成していきたい。
- 鳥取市が昭和47年に第1次総合開発計画を策定して以来、計画的な行政を図り、現在第8次に至る。第8次の計画期間が今年度で終了するにともない、新たな総合計画の策定に取り組む。人口減少や雇用問題などの世の中の流れ、本市を取り巻く潮流を意識しながら策定したい。全国的な潮流であり、ビビッドに鳥取市に反映されていくものとしては人口減少、環境問題、広域交流時代の進展、安全安心なくらしへの意識の高まり、価値観の多様化、高度情報社会の進展、地域主権の7点が挙げられる。
- 総合計画は基本構想、基本計画、実施計画の3本立ての構成である。基本構想は長期構想であり、将来像と実現に向けた目標という基本政策で10年間の計画。基本計画は、基本構想で示された将来像を実現するための主要施策で5年間の計画。実施計画は具体的に基本計画を実現していくものであり期間は3年間とする。計画の役割としては、本市の市政進行の方向性を示す、市民にまちづくりの方向を理解いただく、国・県に対しての要望をもちこんでいくというもの。
- 策定の視点としては、「ひとを大切にすまちなづくり」を基本理念と考える。社会経済情勢に柔軟かつ適切に対応し、市民にわかりやすい計画にしていきたい。
- 行政評価・予算編成と連携しながら、計画の進行管理を行いたい。
- 第8次総合計画の成果と課題をふまえて、第9次総合計画に取り組んでいきたい。
- 策定の体制としては、総合企画委員会、まちなづくり市民アンケート、ワークショップ、各地区のまちなづくり協議会の意見をふまえながら進めていく。
- 策定の根拠として、基本構想は地方自治法に根拠が求められている。
- 策定のスケジュールは、今回骨組みの提案をさせていただいた。具体的な中身を出しながら、年度末の議会で基本構想議決としたい。
- 総合計画の体系図として、基本理念は「ひとを大切にすまちなづくり」とする芯を1本通したい。将来像「ひとが輝き まちがきらめく 快適環境都市鳥取」は、合併後の新市まちなづくり計画、第8次総合計画を踏襲し引き続き目標とする。

●委員（事前意見書）

「本市を取り巻く社会の潮流」の、安全安心なくらしへの意識の高まりについて、福祉・保険・医療の充実の背景がない。

○田中企画調整課長

主に人口減少、少子高齢化の進展に関連するものだと考えるが、具体的な項目として背

景を細分化する中で盛り込んで行きたい。犯罪の多様化に対するものかという問いについては、近年の振込め詐欺や食品の安全性が問われる事件という現状をふまえている。これに加え、安定した収入や高校・大学卒の就職率の低下はどうかという問いもあるが、ダイレクトにこの問題に繋がるのか、疑問点があると考えている。

●委員（事前意見書）

社会潮流の「価値観の多様化」という部分で、「社会の成熟化」とはどのような意味か。

○田中企画調整課長

第2次大戦後の復興、高度経済成長期の右肩上がりの経済社会が飽和した後の、次の段階である。大量生産・大量消費から脱却し、物質的なものから心の豊かさが重視される社会に転換していくということとして一般的に言われている。ライフスタイルの多様化については、個性的で自由な生活様式があるということを表している。

<質疑・応答>

○委員長

鳥取市総合計画の骨格について、何かご意見は。

今回は大きな社会の潮流を挙げて課題が出ているが、鳥取市固有の問題に直結しづらい気がする。これから5年、10年と先を見据えて取り組む中で、国の財政が非常に逼迫しているのでドラスティックに変わらざるを得ないのではないか。国の収入が約36兆、借金は約44兆というバランスは考えられない。プライマリーバランスで言えば、2年前まではバランスがなんとか取れていたが、現在の支出がはるかに大きくなり借金でまかなうという状況は、戦後1回あっただけ。今の状況からプライマリーバランスが取れる状態になるには4、5年かかるとのことだから今後が大変である。今後は財政面の議論が一番大きな課題。国が財政難になれば地方もなるのは間違いないので、乗り切るために知恵をだしていかなければならない。

○委員

財源確保について、住民の熱い思いを発信し続けてきている。その成果として国から追加予算が生まれ31%の復活が認められたが、実際は概算要求の時点で縮減されている。傍から見れば鳥取県だけ恵まれているように思えるが、鳥取の実情をふまえ、住民の声を発信していくことが必要。今後は、関係する地方公共団体と協力して国に陳情するような活動が重要になるのではないか。

○委員

市民アンケートで大学生が除かれている。大学生は世界に向けてのアンテナだと思う。学生に鳥取のことをよく知ってもらい、良さをわかってもらうことが大事。学生を利用しない手はない。世界各国から留学生が来ているが、何年後かには各地に広がり、鳥取を覚えてくれていると有益な交流ができる。彼らを除いてプランをたてるのはもったいない。

○田中企画調整課長

大学生は除いておらず、全員ではないが、抽出した中で全体の11.8%は学生の回答である。留学生については、企画推進部も国際交流事業を持っており、意見交換をして

いるので、それをふまえながら施策をつくるようにしている。

○委員

国際交流に関するボランティアをしており、前年度も鳥取旅行を企画し、鳥取大学の学生を鳥取のよいところに案内した。学生たちは鳥取市のいいところをあまり見ないで帰ってしまう。樗谷公園や観音院などに行ったが、こんないいところがあるのか、こんなおいしいものがあるのかと言ってくれた。自腹でごちそうしたが、鳥取がいかにかいいところか教えてあげる機会があれば、彼らが地元に戻ったときにPRしてくれる。また将来もう一回訪れてみようかと思うのではないか。

○委員

鳥取だけの課題ではないが、人口減少が一番深刻だと思う。鳥取県の人口が58万人になったが、中でも鳥取市の減少数は一番多い。第9次総合計画の中に子育て支援や若者定着のための項目はあるが、数値目標を挙げた上で重点施策として掲げた方が市民にもわかりやすい。超高齢化社会になっているので、高齢者のモデル都市として理念を掲げて心身元気に暮らすことができる鳥取市をつくることを目指してはどうか。もうひとつ、中山間地対策を大きく打ち出したらどうかと思う。

○田中企画調整課長

人口減少の歯止めについては、人口推計を行い、将来の目標人口を出して総合計画の中に位置付けたい。高齢者モデル都市のご意見については、セクションを含めて考えていきたい。中山間地対策は重点推進項目に位置付けており、強化対策方針をまとめている。具体的な推進施策は、第9次総合計画の策定をしながら進めたいが、施策の中で大きく位置付けたい。

○委員

目標が抽象的に感じる。具体的な内容を掲げた上で、基本政策等をつけた方が市民にもわかりやすいのではないか。

○田中企画調整課長

今のご意見を検討して次回また提示したい。

○委員長

鳥取は高齢社会の先進市である。高齢者が安心していきいき暮らせるようなまちにするためには、単に「安全・安心」といったキャッチフレーズではなく、具体的に掲げてほしい。優等生の作文ではなく、あくの強い文章にしてはどうか。

○委員

行政へのお願いだが、中山間地の活性化施策については県も重要視している。昨年、中部・西部は各町村を訪問して協議を重ねているようだ。鳥取市も各地域に足を運んで、住民と一緒に方向性を見出してもらいたい。抽象的な表現が多いので、理解に戸惑いが生じる気もするのでご配慮をお願いしたい。

○委員

子育て環境の充実について、放課後児童クラブは私たちにとって子どもを安全に預ける

ことができ、安心して働けるという点でとても大切。17時でクラブが終わってしまうのはとても困る。18時まで延長するクラブが増えたのは非常にありがたい。土曜については、人数が少ないので指導員にいやな顔をされることもあり、預けにくいという面もある。それでもニーズがあることから対策をとって支援して頂きたい。学年も2年生までと限定せず、児童全体を対象とすることを考えてほしい。施設のスペースに対して子どもの人数が多いので、安全面・精神面で環境がよくないように思う。

○委員

若年層でいうと雇用政策が最重要の課題である。重点推進項目にも掲げられているが、具体的な雇用対策を推進してもらいたい。人口流出を懸念しているが、就職がないために都会へ出る若年層が非常に多く、雇用があれば鳥取にいたいという意見もある。かつてのような産業構造ではないので、行政分野も産業界と連携を図り、マッチングを推進し、人材育成・労働教育を含めた施策をつくってもらいたい。

○委員長

中身を濃いものにしてほしいということ。どういう方向づけをし、雇用を充実させるか。そのためには産業の育成が必要だが、どういう産業をどういう観点で育てるか。非常に難しいことなので知恵をだしていかないといけない。

この委員会は今日を入れて4回ということだから、事務局は委員からの要望をよく聞いてもらって次の段階では具体的にしていきたい。お互いに議論できるように、発言された委員さんもよく覚えておいて頂きたい。

○委員

45年間大阪にいて、2年前に鳥取へ帰ってきた。その間に多くの友人が鳥取を訪ねてきてくれた。私は用瀬でとてもいい家に住ませてもらっていて、それを見て鳥取に住みたいと言ってくれた人もいるが、いざとなると住む家が一番足りない。人口を増やすためには家対策が重要である。空いていても貸してくれないという状況もあるので、真剣に対策を立てればうまくいくと思う。UI会の中の半分はIターンの方なので、家があれば帰ってくる。空き家を持っている人にとって、市役所に貸すのは勇気があることなので、個人レベルで信頼できる人の友人であれば貸すことができる。いかに民間人を間にいれて空き家を確保するか。そのほかにも土地や遊休農地、公民館などを再利用できるかを考える施策を打ち出してほしい。

○委員長

家については中古住宅を買いたいのか、借りたいのかどちらの要望が多いのか。

○委員

借りたいという方が多い。借りたいと思う家が空いているのに貸してもらえないという状況がある。

○委員

中山間地の話が出たが、文化面では芸術の出前講座を行っている。昨年は神戸地区に行ったが、この地区から鳥取市（市街地）に出ようと思うと交通費が往復千円程度かかる。

博物館やわらべ館など、子どもが無料で利用できる施設でも、実際は費用がかかっており格差がある。新市において一番の問題はバス。以前と異なり地域のバスが使えない状況で、子どもを文化施設に連れていくことができなくなっている。配慮をお願いしたい。

○委員

地域で活躍する人材の育成について。以前環境大学の聴講生として講義に出席させてもらい非常に勉強になった。その際、総合支所の担当へ河原地域の部落長推薦を受けた方は聴講料の半額助成をしてもらえるとありがたいという提案をしたがだめだった。環境大学には地域で活躍するという視点を明確にできる部分が備わっており、学生と私とお互いに活性化できたと思う。

3月のC. W. ニコル氏の「森から未来をみる」という講演を聞き非常によかった。ただ残念なのは参加者が少なかったこと。森の大事さもわかり、森を通しての取組みの中にいろいろな課題を持つ地域で活躍する方に対して、ニコル氏が適切にアドバイスをしてくれた。講演会を充実させていただきたい。

○委員

人口や観光客など、人の流れを奪い合う都市間の競争をしていかなければならない。そこで一番重要なのは、特徴のある市を目指していくこと。平均点を取ることも大事だが、日本一、世界一をとるような鳥取市としての特徴が必要。住民が共有できる目指す方向性をつくるのが大切である。重点推進項目にさらに優先順位をつけ、力をいれていくべきところをもう少しピックアップしてもいいのではないか。

●委員（事前意見書）

インターネットショップの具体的な内容とは。

鳥取市の個人の農家が、姫路や岡山などへ直接販売できる仕組みができないか。

○田中企画調整課長

鳥取市の特産品や農林水産物を積極的に売り出すということで、インターネットを活用していくということ。まず調査研究を補正予算であげて取り組んでいきたい。個人農家の直接販売については、出荷量や手数料支払などの問題がある。鳥取自動車道開通を契機にして、本市も鳥取地域ブランド農産物と工夫してきたが、まだまだ認知度が低く生産量が少ないという問題がある。1市4町、JA いなばと協力し、引き続き取組みを進めていきたい。

●委員（事前意見書）

住民参画の視点で取り組んでほしい。

○田中企画調整課長

第9次総合計画においては、住民参画の一つの視点として、市民との具体的な契約ということを含めて策定していきたい。

（2）報告事項

事務局より説明（鹿田企画調整課課長補佐）

①市民（若者会議）ワークショップについて…資料2

②鳥取市若者会議（第2期）提言内容について…資料3

鳥取市若者会議は平成18年に制度をつくり、2期目の活動が終了した。18～30歳の30名ほどで組織し3つのグループで活動している。

（各グループの活動内容）資料3より

- ・Aグループ：鳥取の食を生かした地域づくり。とうふちくわなど、ブランド力の向上。
- ・Bグループ：人口減少をふまえて若者の定住しやすいまちづくり。2回にわたり婚活活動として出会いの場を提供した。
- ・Cグループ：環境問題に取り組み、屋上緑化・壁面緑化について県内外の施設見学。

（各グループの提言）資料2より

交通、中心市街地活性化、観光対策の3つのテーマについて意見をいただいた。

●委員（事前意見書）

鳥取市を楽しむ、観光地をめぐるツアーを企画してはどうか。

Bグループの「鳥取市役所に婚活課の設置」という提言について、行政が婚活を行うことについては疑問を感じる。

○田中企画調整課長

山陰海岸ジオパークや砂の美術館など、観光資源の魅力を高める取組みを引き続き検討していきたい。婚活については、市が直接的な婚活を行うのではなく、いろいろな団体から要請を受け、出会いの場をつくる取組みに対する支援ができないかと考えているところ。全国的にも行政が取り組んでいる状況もあるので、前向きに検討していきたい。

○委員

若者会議からでた意見も総合計画の中に取り入れてもらいたい。生活交通システム、バスについての意見もあるが、本格的に取り組んでほしい。まちが高齢者、若者、子どもに優しいかどうかは、交通路線をどう維持するかという点でよくわかる。若者会議はあるが、シルバー会議はないのか。座談会があるとのことだが、その意見がこの委員に入ってくるような仕組みがほしい。

○委員

若者会議に参加し、友人もでき非常にありがたい組織活動であった。まちづくりに関しても、現在のさびれた状態を寂しく感じている。その一方で、自分たちが買い物をするにはジャスコに行ってしまうという矛盾があり、真剣に考えて提言をしている。今後はジオパークなどで若者会議が活躍する機会があるのではないか。

○委員

資料2について、若者会議は鳥取をよく見ていると共感できる。JRの本数が少ない、駐車料金が安い、リピーター確保、砂丘近辺の施設が古く、若者にはいまいちな反応など、いいところを見ている。砂丘は大切な財産であるにも関わらず、対策ができていないのは悲しいこと。若者の意見を取り入れて検討してほしい。

○委員

大阪から本市に移住してこられた年配の方より指摘をいただいたので伝える。砂像フェスティバルのボランティアに参加したが、町内会で参加している人にはパンが配られていたが自分たちにはなく寂しい思いをしたとのこと。また市民も役所職員も不親切というか優しくないとの意見だった。市議会を傍聴しようと思った時には、他に人がおらず、市民の意思はないのかと言われていた。リピーターを増やしたり、定住者を増やすにはきめこまかな配慮が必要ではないか。

○委員

岡山で、兵庫・岡山・鳥取の交流研究会で印象深い意見があった。鳥取のイベントは市民の中からうまれて、市民の力が漲っていると。工業地帯に鳥取の若者が多く来ているそうだが、勤勉であるということ。

5 その他

○田中企画調整課長

資料として市報をつけており、中山間地域の強化方針を策定したものを載せている。鳥取・因幡定住自立圏形成協定の締結についても載せており、単独ではできない広域的な行政に取り組んでいくということで、総合計画をつくるにあたって大きなポイントになるのではないと思う。砂の美術館、ジオパークのパンフレットもつけているのでご覧いただきたい。

○委員

確認だが、総合計画の体系図のまちづくりの基本理念と将来像は決定なのか。それともいろいろな意見が出て、変更できる余地はあるのか。

○羽場企画推進部長

基本はこれで進めたい。基本理念は、市長が「ひとを大切にするまち」を進めていきたいと掲げたものを具体化・明文化したもの。将来像については、新市まちづくり計画、第8次総合計画の流れをくんでいる。もし対案があれば検討をしたい。

○委員

個人的な感想ではインパクトが弱いと感じる。市民へ印象づけるようなキャッチコピーがほしい。

○羽場企画推進部長

「ひとを大切にするまち」を基本として、うったえかける部分で琴線に触れるような表現のご提言をいただければと思う。

6 閉会

○羽場企画推進部長

今日頂いたご意見は、事務局で検討した上で次回までには進めていきたい。この業務は企画推進部から総務部へ移るが、引き続き取り組んでいく。企画推進部は総合計画でも特に取り組まなければいけない戦略的な部分を担い、中長期の総合計画は総務部で行うので今後も宜しくお願ひしたい。